

スポーツボランティア プログラム 「あそびのひろば (トランポリン)」

2016/10/30



10月30日(日)、多摩障害者スポーツセンターで開催された「あそびのひろば(トランポリン)」に、本学の学生6人が運営ボランティアとして参加しました。

障がいの有無にかかわらず、幼児や小学生の子どもたちとその家族の方などが参加され、和やかな雰囲気、トランポリンを楽しんでいました。



～活動内容～

本学の学生は、太鼓を叩きながら何回飛んだかをカウントする係やトランポリンへの誘導や安全に飛ぶように見守る係、順番に並ぶことを促す整列係、その他、順番がくるのを待っている間に体育館で子どもたちと一緒に遊ぶ係などに分かれて活動しました。子どもたちによって、飛ぶレベルなどは様々でしたが、障がいのある子もいない子も自分のペースで自分のレベルで飛ぶことを楽しんでいました。普段はあまり子どもたちと接する機会が少ない学生が多い中、積極的にコミュニケーションをとることで、子どもたちの行動や反応から様々な気づきを得たようです。

～参加した学生の声～

- ・子どもたちの純粋に遊ぶ姿が印象的だったが、一つ一つの行動に明確な意図があることに気づいた。
- ・これまで子どもに対して苦手意識があったが、このボランティアをして苦手意識がなくなった。実際に体験しないと自分の固定観念は覆らないと感じた。この活動は自分を変えるきっかけになった。
- ・職員の方が、子どもたち一人ひとりに合った方法で、子どもたちにルールを守らせつつ楽しませているのが印象に残った。それぞれの子どもの特性に合った遊びを考えたり、対応をすることも大事だと感じた。
- ・短時間だったため、全員の名前を覚えることができなかったが、「名前を呼ぶこと」と「どんな子が特徴を押さえること」は、子ども一人ひとりと仲良くなったり、安全に遊ぶために必要なことだと思った。
- ・一つの役割を担っているときは、そのことしか見えていないときがあったので、任せられたことに集中しつつも周りにも気を配り、職員や保護者の方とも積極的に関わりをもち、学びたい。